

2021北信越インターハイ（富山県高岡市）の報告とご支援に対する御礼

1 出場までの経過

現3年生は、入学当初より団体戦でのインターハイ出場を目標に掲げ、ひたむきに汗を流してきた生徒たちでした。その言葉通り6月の県高校総体では、決勝までコマを進め奮闘してくれましたが、惜しくも準優勝でした。個人戦ダブルスでは島貫陽仁・山路徹（共に3年）組が準決勝で優勝したペアに敗れ3位。同シングルスで島貫陽仁と油井颯飛（1年）が準決勝で同校対決し、島貫が決勝進出。決勝ではファイナルゲームまでもつれる熱戦でしたが惜敗し、県第2代表としてインターハイの切符を手に入れました。東北高校総体はコロナ禍の影響で中止となりましたが、久しぶりに全種目での出場権を獲得しました。

2 大会報告

8月8日から開催されたインターハイは、前年度コロナ禍の影響で中止となっていたため2年ぶりとなり、その対策が厳重に施された無観客の中で開催されました。そのため出場する種目開催日以外は、試合会場にも入れないという状況でしたので、10日に出発し、12日の試合に向けて練習会場と宿を往復するだけの時間を過ごしました。

試合当日、大雨警報の土砂降りの中、会場入りし、初戦（土佐・高知県）に臨みました。カウンターレシーブとネットを得意とする相手でしたが、1st 21-18 2nd 15-21 final 21-17 の2-1で勝利。2回戦（高岡第一・富山県）は、3月の全国選抜3位の第3シード選手。地元開催のために強化されてきたことがうかがえる高校生離れした試合運びでした。結果として1st、2ndとも13点の0-2で敗れましたが、「相手がどうだろうと最後まで自分がやってきたことを貫こう」とだけ伝えていたとおり、最後まで島貫らしいバドミントンで戦ってくれました。

全国でバドミントンをしている高校生数万人の中から、たった98人だけが上がれるこの舞台は、やはりひと回りも、ふた回りも生徒を成長させてくれる、と試合後の島貫の顔を見て、改めて感慨深く思いました。

3 応援して下さった、すべての皆様へ

今年2014年以来7年ぶりのインターハイ出場となりましたが、本校バドミントン部のために、実に多くの方々より物心両面にわたり多大なるご支援を賜りました。

これまでなかなか結果を出せなかった中であっても、毎年のように会長自ら学校に足を運んでお声がけくださった南高バドミントン部OB会様をはじめ、山形地区バドミントン協会様、ラケットショップ様に、保護者会ともども心より厚く御礼申し上げます。

また、本校バドミントン部OBでもある藤井コーチをはじめ、他校出身でありながら練習相手をしながらアドバイスをいただいた大学生や社会人の方々は、プライベートな時間を削り、「雀の涙」程度の謝礼しかない中でお手伝いいただきました。本当にありがとうございました。

最後になりますが、南高教職員の皆様と、この困難な状況の中、日頃より活動にご理解とご協力をいただいている保護者会の皆様方、勝敗や経験の有無に関わらない一丸となった応援体制は、本当に嬉しく、そして心強く感謝しております。誠に有難うございました。今後も顧問・部員一同、バドミントンをとおして人として成長できるよう精進してまいりますので、何卒変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。